

令和3年4月4日

令和2年度学校関係者評価報告書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

学校法人桑園学園札幌情報未来専門学校

令和3年4月4日

学校法人 桑園学園
札幌情報未来専門学校
自己評価委員会
学校関係者評価委員会

令和2年度 学校関係者評価委員会 議事録

(1) 日 時 令和3年4月4日(日) 10:30~11:30

(2) 対象学科 ITシステムエンジニア学科

(3) 出席者

- 1) 学校関係者委員会・学外委員 (順不同)
 - ・大野 俊様 (北海道リージョナルリサーチ 監事)
 - ・小野 大介様 (札幌情報未来専門学校同窓会)
 - ・英 大典様 (札幌情報未来専門学校 卒業生代表)

2) 内部職員・進行

- ・小林 仁 (校長・学校評価委員会委員長)
- ・田中 秀一 (教員)
- ・北國 裕太 (教員)

(4) 議 事

- 1) 令和2年度自己評価について
自己評価アンケート集計結果
問題点の抽出および改善・意見

2) その他

- ・内容は別紙添付

以 上

(1) 令和2年度自己評価について

1 教育理念・目的 における問題点

- ◆項番1 学科ごとの育成の人材像の明確化
- ◆項番2 学校の特色は何か
- ◆項番3 学校の将来構想を抱いているか

①カリキュラムの再編成と課題

学科の履修範囲と内容の明確化

- ・カリキュラムの構成とシラバスの見直し
- ・学生の志向による選択コース

《改善・対策》

より実践的なカリキュラムと社会人としての常識を持たせる。学校力を上げ、学生の満足度を上げることが必要。

カリキュラム、教員の見直し

【委員コメント】

校長) ここ数年で入学者数を伸ばすことができているが、収支状況の安定化のため次年度以降の入学者数の確保が優先事項である。令和3年度よりカリキュラムの見直しを行い、どの分野においても根幹となるシステム開発の知識・技術はこれまで通り当校の教育の主体としながらも、高校生が関心を持っているゲーム、Web、AI等の科目を充実させ、学生が自分の志向に合わせて科目選択できる体制を整えた。

2 学校運営 における問題点

- ◆項番6 意思決定の敏速化と方針決定の改善は出来ているか

①現場での裁量権、職務権限の委譲により効率化をする。

②一人集中を避け、権限の分散化ができるか

《改善・対策》

- ・権限移譲は、理事長→校長まで
- ・今後は、現場への権限委譲と分散化

- ◆項番7 情報システム化等による業務の効率化がはかられているか

①情報システムが陳腐化している。

②システム制作して古いため、ソフトのバージョンアップに対応していない。

③月次、年次処理に不具合がある。

いよいよ、表面化してきた。

《改善・対策》

- ・新システムへの制作と移行を計画する。現状のシステムの不良点。使用の把握から計画を立てていく。

3 教育活動 における問題点

◆項番 11 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

◆項番 12 授業評価の実施・評価体制はあるか

【自己アンケより】

- ・授業アンケートの仕方によって、学生の生の声が出てこない。
- ・在籍数が増えることによって、集計の効率をかけつつ、拾い上げる意見を漏らさない方法はないか。

《改善・対策》

- ・回収時の機密性を高めるため、科目担当者が集めるのではなく職員回収、または代表学生による事務局提出とする。
- ・ネットのサイトによる集計などを利用

◆項番 13 育成目標に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか。(次年度続き)

《改善・対策》

- ・入学者が増加しているため、授業コマの増加も比例して多くなっている。専門科目の教員の増員確保を
実施中である。
- ・非常勤の人数も専任講師の人数により上限が制限されているため、調整が必要。

【委員コメント】

大野様) 教員確保のため、アクティブシニアを活用する手はあると考える。

校長) カリキュラムの見直しを行い、専門科目を充実させたこともあり人員確保は必要不可欠であるため方法を検討する。

◆項番 14 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか

【自己アンケより】

- ・実習が少なく、演習が多くなっておりバランスが悪い。実態は実習と思われる科目が演習となっている。
- ・単位認定、カリキュラムの再編から学則である、卒業認定単位を変更
旧卒業認定総時間数 2,700 時間 150 単位→120 単位
新卒業認定総時間数 2,700 時間 120 単位→ 80 単位
- ・実習、演習の単位換算を、実態に合わせて実習を増やす。卒業認定時間数は、そのままとする。

《改善・対策》

- ・卒業単位数を満たすことが、無理な科目取得に繋がっているため総単位数を落とす。
あくまで、時間数主体と考える。

【自己アンケより】

- ・非常勤の成績評価について、素点、平常点の配分が不明確。

《改善・対策》

- ・平常点の割合を、具体的に示す。
- ・素点を含めて成績表の提出
- ・試験問題の提出を義務化し、履修範囲と授業レベル、習得度を管理する。

4 教育成果 における問題点

- ◆項番 17 就職率の向上ははかられているか
- ◆項番 18 資格取得率の向上ははかられているか

・R03年3月現在 国家試験合格者数、その他資格の実績数が目標を下回っている。新型コロナの影響もあるが、授業を工夫して効率よく対応する必要がある。

- ・就職 R03年3月現在 就職 10名内定/12名 希望せず2名
- ・休退学 R02年度退学者2人(病気×1名、経済的事情×1名)

(実績/目標)

自己評価での指摘事項の抜粋

【自己アンケートより】

- ・卒業生の直接のアンケートによる方法は可能か
- ・資格取得講座の科学的なアプローチ

【委員コメント】

校 長) 同窓会用 HP の立ち上げ等で情報収集や卒業生のアンケート収集などの方法を模索中

校 長) 最近のコロナ禍で学習環境が限られる中でも、学生の勉強姿勢が上向き自主性が出てきておりその成果が次年度以降の資格取得率にも表れると考える。

5 学生支援 における問題点

- ◆項番 21 支援は図られているか？

①新型コロナウイルス感染症による学校の対策と支援

- ・4月～5月の一斉休校
- ・6月より対面授業開始 ラッシュ時を避けるための短縮授業実施
- ・校内全館消毒を毎日実施
- ・談話室にパテーション導入、玄関に体温計、アルコール消毒剤設置
- ・学生、教職員の外出自粛要請
- ・奨学金の緊急融資の告知
- ・父母に対して、家庭での感染防止を要請、学校の対策を告知

《改善・対策》

- ・毎日の消毒作業を低減、抗菌剤塗布
- ・教職員に定期的にPCR検査

【委員コメント】

校 長) 感染症対策をしっかりと行いながら、学生のモチベーションの維持、個別フォローのため対面で授業を実施した。

校 長) R02年3月より、教職員による毎日全館消毒を行ってきたが、収束の見通しも立たず負担も大きいため、教室、実習機を含めて手の触れる場所に抗菌剤でコーティングを行うことにより消毒作業を週1回に低減した

6 教育環境

- ◆項番 29 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できているか
- ◆項番 31 防災に対する体制は整備されているか

《改善・対策》

- ・入学者増による実習機の追加及び新設実習室整備
- ・ソフトのバージョンアップの予算化、購入
- ・対応する教員スキルのある人材確保
- ・学生のディスタンス確保とパターションの導入

7 学生の募集 における問題点

- ◆項番 32 学生募集活動は、適正におこなわれているか
- ◆項番 33 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

課題

- ・入学者の確保について
- ・実習室環境、教員の確保

【自己アンケートより】

- ・専任講師にも、広報活動に参加させることで意思統一ができるのでは。

《改善・対策》

- ・新型コロナウイルスによる、相談会等の接触が低減している。オープンキャンパスの告知と参加率向上のため、勧誘DMを多くする。
- ・専任広報担当者の確保と、専任講師のコマの低減が必要

【委員コメント】

大野様) 専門学校に進学活動の動き出しはどうなっているか。

校長) 高校2年生に対して動き出している。近年の高校のキャリア教育として、早めに進路を決めるよう学生指導を行っている様子。しかし、昨年の2年生にはコロナウイルスの影響でコンタクトができず、今後はWeb上でアピールできる仕組みも必要と考える。

8 財務 における問題点

- ◆項番 36 中長期的に学校の財務基盤は安定しているか
- ◆項番 37 予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- ◆項番 38 財務について会計監査が適正におこなわれているか

《成果》

資金収支的にアンバランスが、次年度是正される。
広報予算は十分とは言えないが、工夫次第のところまで予算確保できている。
教育投資として、新年度の実習機、ソフトの改善を行った。

《改善・対策》

継続的に入学者が増えることが肝心であり、募集活動の戦略が重要である。

9 法令等の遵守 における問題点

- ◆項番 42 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

《成果》

評価委員会の評価をもとに、是正に努めており年々の入学者増と教職員の意識向上が見えている。今後、学生の習得度を上げるため、さらに改善に努める。

10 社会貢献

◆項番 43 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献

《成果》

- ・教員向けサマーセミナー、新春セミナーの実施はできず
- ・中学生（上級学校訪問）対応 一部実施

① 課題

- ・コロナウイルスの影響による実施の受入れ側の要望削減が
- ・募集活動への展開

② 今後の改善方策

- ・オンラインによる方法、一旦休止も検討。

(2) その他

- ・委員の任期中となるが人事改編の為、令和3年度9月以降の委員の改選を実施したい。詳細は追ってご案内する。

各委員より出された意見、指摘、要請について、学校側より改善策や検討事項として計画に盛り込み、学校運営に反映することを述べ会議の終了となった。

以上